



東 京 各 種 新 聞

○十月十日の午後三時を以て富沢町南新道火除地の  
貸敷一玉置屋と隣人宿、荷物を付てきり馬を  
門端へ繋ぎあせ馬士用達一し行つたが、  
子供の悪遊ひに石を投ると  
馬はあせり土蔵を漆うと  
大下水へ伴綱へされてトサくと落る  
善近所の人馬  
共混雜し馬士  
あせりて種々  
を採てあせり  
五時過ぎてあせりて揚ら  
果て切てあせりて  
とて通りつ



▲お早  
くつて  
辻占と賣  
男馬の手  
りて鈴と  
かろくと  
たふ天と  
馬を飛あ  
うく氣轉  
の雇人伊  
次男信助  
りて雇つて  
初會の客  
白濱志の  
某の懐中  
からか届  
でも其筋  
ありお綱  
左様な事  
いひ立  
東京の南

横濱高島町の  
質生敷神風樓  
の雇人伊藤國  
次男信助(廿六)  
りて雇つて居  
初會の客で  
白濱志の山と  
某の懐中物  
からか届と  
でも其筋(わ  
ありお綱(わ  
左様な事(無  
いひ立(廿日  
東京の南(ま



朝の雨  
雲井の心  
まのめこと  
起證  
金つ  
たさ  
さう  
品  
き



應  
香  
ホリヤ

